

各関係機関長 殿
病虫害防除員 殿

徳島県立農林水産総合技術支援センター
病虫害防除所長
(公印省略)

平成22年度農作物病虫害発生予察情報について

平成22年度農作物病虫害発生予察特殊報第2号を発表したので送付します。

平成22年度農作物病虫害発生予察特殊報第2号

平成23年 3月18日
徳 島 県

1 病虫害名及び病原名

ネギえそ条斑病 *Iris yellow spot virus*(IYSV)

2 発生作物

ネギ

3 発生地域

県下全域

4 発生の経過

平成22年7月に葉に白色のえそ条斑を生ずるネギが見られた。当センター病虫害担当においてDAS-ELISA法及びRT-PCR法により検定したところ、*Iris yellow spot virus*(IYSV)が検出され、ネギえそ条斑病の発生が確認された。本ウイルスに起因する病害発生は県内では初確認である。その後、県下全域で本ウイルスの発生調査を実施したところ、複数のネギ栽培地において本病の発生が確認されている。

5 症状 等

[病徴]

葉身に不明瞭な退緑斑が発生し、その後淡黄色～白色のえそ条斑を生じる。大きさは1～1.5cm程度である。



[伝搬方法]

本ウイルスはネギアザミウマによって媒介される。幼虫時にウイルス感染植物から吸汁することによりウイルスを獲得し、一度ウイルスを獲得した個体は死ぬまでウイルスを伝搬(永続伝搬)するが、経卵伝染はしない。その他のアザミウマによる伝搬は確認されておらず、土壌伝染、種子伝染はしない。管理作業による汁液伝染の可能性も低い。

[媒介昆虫]

ネギアザミウマは、ネギ、ニラ等のユリ科植物の害虫として特に問題となるが、ウリ科、ナス科、マメ科、キク科等、広範な植物で寄生が確認されている。体長は1.1~1.6mm、体色は黄色~褐色で、一般に夏季は淡色、冬季は暗色の個体が多い。ネギ等の栽培作物やノビル等の雑草において成虫が越冬する。卵は20℃では約20日、25℃では約16日で成虫になり、成虫の生存期間は21~47日とされている。



[感染植物]

本ウイルスはユリ科をはじめ、17科40種以上の植物で感染が確認されている。主な被害作物としては、ねぎ、タマネギ、ニラ、ラッキョウ、ニンニク(以上ユリ科)、トルコギキョウ(リンドウ科)、アルストロメリア(アルストロメリア科)、アマリリス、スイセン(以上ヒガンバナ科) 等がある。

6 他県での発生状況

本ウイルスによる病害は、平成8年に千葉県のアルストロメリアで発生確認され、平成23年3月までに1都24県で発生が確認されている。四国では、本県を除いた各県で発生が確認されている。

7 防除対策 等

- (1)本ウイルスを媒介するネギアザミウマの防除を徹底する。薬剤散布にあたっては、系統の異なる薬剤をローテーション散布する。移植栽培の場合は、媒介虫の防除は育苗期から徹底して本圃に感染株や媒介虫を持ち込まないようにし、定植時には粒剤を施用する。直播栽培では播種時に粒剤を施す。
- (2)圃場内及び周辺の雑草や収穫後の残渣はネギアザミウマの生息場所となるので、除草や残渣処理を徹底する。
- (3)施設栽培では、紫外線カットフィルムの利用や、開口部への防虫ネット設置により、外部からのネギアザミウマ侵入を防ぐ。また、栽培終了後は施設を密閉してネギアザミウマを死滅させ、施設外への飛散を防止する。
- (4)発病株は見つけ次第抜き取り、ポリ袋に密封して圃場外に持ち出し適正に処分する。ネギアザミウマの分散防止のため、抜き取り前に薬剤防除を行なう。